



第8号

令和6年12月20日

庄和すずらん幼稚園

## 保育随想

### ★ 心のふるさと！

ふるさとはどこですかと あなたはきいた この町の生れですと わたしは答えた  
ああ、そしてあなたがいつの日か あなたのふるさとへ つれて行ってくれる日を  
夢みたの 生まれたてのこの愛の ゆくえを祈ったの

ふるさとはどこですかと 私はきいた 南の海の町と あなたは答えた  
ああ、そして幼い日のことを 瞳をかがやかせ 歌うように夢のように話したわ  
ふたりして行かないかと 私にはきこえたの

ああ、だけど今では思い出ね あなたはふるさとへ ただひとりただひとり帰るのね  
ふるさとはそんなにも あたたかいものなのね

その昔テレサテンが歌っておりました歌です。会うは別れの始めとは、どなたが言った言葉でしょうか。今年も親しくお付き合いをして下さった人とのお別れを忍んで涙する日が多くありました。そして、その方々が、いろいろな思い出をお土産として置いて行ってくれました。お別れの度に自分の今あることを顧みるのです。亡くなった方ばかりではなく遠方へ引っ越されることでの別れも最近経験をしました。当然お世話になった方なのですが、郷里の山形県の月山のふもとで営んでいる歯科医院で、院内を改装してお父上関わって来た患者さんを超えて、新しい息吹をもって地域の人達への貢献を期待するものです。歯が整うと笑顔で世の中に向かって生きられます。そして、何でも美味しく頂けることが嬉しいですね。この世は会者定離とは申せ、一人ひとりの人生に触れ合っている今を大事に考えることは、生きてる喜びを一層深く感じられることにつながるように思います。そして、今ある、その方のこれまでの生い立ちや環境を知ることによって理解を得られる喜びも生れるものです。

あなたの心のふるさは、どこにありますか。父ですか、母ですか。幼い頃に育った環境ですか、その後に出会った人たちですか。お付き合いや出会いが始まると、自然とその人のルーツ、故郷が聞こえて来るものです。一人ひとりの故郷がありますので、今やらなければならないことに追われる毎日ですが、お逢い出来た方の故郷をお聞きできるひとは、私の喜びの時間に成ります。お話をしてくれる、故郷につながる今を聞かせて貰える。どなたにも楽しいこと、忘れられない頭をよぎることなどを携えながら、また乗り越えて今を生きる姿を考えると、自分の生き方の羅針盤にもなって居るので。年の暮れを目の前にして、一年を振り返る静かな時間は、一人ひとりに、ありがとうございます。と言う気持ちに成ります。皆さまにも、ありがとうございます！

健康で喜びに沢山出会える年に成りますよう、お祈りいたします。